

2014年度 センター試験 倫理・政経(本試験) 分析

全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：6題	解答数：39問	
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化	
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少	
出題分野の変化	○ あり	● なし	
出題形式の変化	○ あり	● なし	
新傾向の問題	○ あり	● なし	

総評

今年「倫理、政治・経済」の出題が再開されて3年目となった。「倫理」分野から50点分、「政治・経済」分野から50点分出題され、それぞれの設問は、単独科目の「倫理」および「政治・経済」からの抜粋で構成されている点では変化はない。昨年は、「倫理、政治・経済」オリジナル設問が倫理分野に2問出題されたが、今年は、オリジナルの出題は1問であった。設問では、「倫理」分野が19問、「政治・経済」分野が20問であり、「政治」と「経済」の各分野は均等に出題されている。全範囲から満遍なく出題されるのが公民科の特徴といえるだろう。なお、倫理分野では著作読み取りや趣旨合致問題が、政経分野では資料分析問題が多く出題されている。単純な知識だけでなく、読解力や分析力など総合的な力が問われることにも留意しておきたい。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	倫理分野・フェアトレードをテーマにした会話を素材に、現代社会の諸問題を総合的に問う。	14点	現代のヒューマニズム・青年期の課題・センの著作読み取り・社会問題・葛藤について問う。リード文は「倫理」の第1問と同一で、出題もそこからの抜粋である。
第2問	倫理分野・人間と自然との関わりをテーマに、日本思想を総合的に問う。	18点	董仲舒（とうちゅうじょ）の著作読み取り・源信・賀茂真淵・イスラーム・二宮尊徳・南方熊楠・趣旨問題の順に問う。リード文は「倫理」の第3問と同一で、第2・3問からの抜粋で構成されている。なお、問1は倫政オリジナルの出題である。
第3問	倫理分野・想像力をキーワードに、西洋思想を総合的に問う。	18点	キリスト教・モア・ストア派・カント・ゲーテの著作読み取り・思想家判別・趣旨問題の順に問う。リード文は「倫理」の第4問と同一で、第2・4問からの抜粋で構成されている。
第4問	政経分野・グローバル化をリード文に、政治と経済の各分野を総合的に問う。	14点	グローバル化を背景に政策決定過程への国民参加や多様性に寛容な政策を求めるリード文で、政治と経済の各分野を総合的に問う。リード文は「倫理、政治・経済」のオリジナルだが、設問は「政経」の第1・5問からの抜粋。
第5問	政経分野・グローバル化と経済格差をテーマとした会話を素材に、経済分野を総合的に問う。	18点	年金制度・経済主体・資料読み取り・金融政策・市場機構・株式会社・非営利法人の順に出題。リード文は「政治・経済」の第3問と同一で、設問も同問題からの抜粋で構成されている。
第6問	政経分野・立憲主義のあり方について問うリード文を素材に、政治分野を総合的に問う。	18点	新旧憲法の規定・国民主権・選挙に関わる分析・新旧憲法の比較・投票率のグラフ読み取り・違憲立法審査権・日米安保条約について問う。リード文は「政治・経済」の第4問と同一で、設問も同問題からの抜粋である。